

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	演劇	種目	演劇
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	かぶしがいいや うりんこ		
	制作団体名	株式会社 うりんこ		
	代表者職・氏名	代表取締役 児玉 俊介		団体ウェブサイトURL
				www.urinko.jp
	制作団体所在地	〒 465-0018	最寄駅(バス停)	宮根(名古屋市営バス)
		愛知県名古屋市名東区八前一丁目112番地		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	げきだん うりんこ		
	公演団体名	劇団 うりんこ		
	代表者職・氏名	代表 児玉 俊介		団体ウェブサイトURL
				www.urinko.jp
	公演団体所在地	〒 465-0018	最寄駅(バス停)	宮根(名古屋市営バス)
		愛知県名古屋市名東区八前一丁目112番地		
	制作団体 設立年月	1973年5月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表取締役 児玉俊介 運営委員長 佐々木政司 事務局長 西尾ひろみ	団員構成員常勤30名(演技部20名、制作部10名)、経理1名、監査役1名 入団試験(書類選考、面接、実技)での合格	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	西尾ひろみ、西尾栄儀
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	中村敬子
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		syousuke.urinko@gmail.com		0527721882

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	昭和48年 劇団うりんこ創立 昭和51年 株式会社 劇団うりんこ設立 昭和54年 劇団うりんこ付属演劇研究所創立 昭和55年 名古屋市芸術奨励賞 団体賞受賞 平成 4年 愛知県芸術文化選賞受賞 平成 7年 (社)日本劇団協議会入会 平成13～15年 文化庁芸術団体重点支援事業 平成18年 児童福祉文化賞「だってだってのおばあさん」 平成23年 名古屋市文化振興事業団『第27回 芸術創造賞』受賞 平成24年 児童福祉文化賞「ぼくってヒーロー？」 平成25年 児童福祉文化賞「ねむるまち」 平成29年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「ともだちやーあいつもともだちー」 平成30年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「夜明けの落語」 令和2年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「きみがしらないひみつの3人」 令和3年2月 法人名を、株式会社うりんこ に変更 令和5年 2月 名古屋市芸術特賞受賞 令和7年 3月 こども家庭庁こども家庭審議会特別推薦児童福祉文化財「クモばんぼとぎんのくつした」	
	学校等における公演実績	令和4年度:合計19作品687回(「小学校は宇宙ステーション」122回「なんちゃってヒーロー」89回「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」67回「ともだちやーあいつもともだち」73回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」82回「きみがしらないひみつの3人」99回「大きなカブ？/パーティー」16回「クモばんぼとぎんのくつした」16回「学校ウサギをつかまえろ」6回「クローゼットQ」22回「罪と罰」2回「ダイアル ア ゴースト」6回「わたしとわたし、ぼくとぼく」36回「ドン・キホーテ」4回「大切なあなたへーI need you！」8回「MARIMO」18回「しし丸どっかあん！」17回「うたうしじみ」1回) 内、学校公演実績14作品419回 令和5年度:合計19作品605回(「小学校は宇宙ステーション」94回「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」96回「ともだちやーあいつもともだち」78回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」65回「くもばんぼとぎんのくつした」95回「大きなカブ？/パーティー」60回「クローゼットQ」13回「わたしとわたし、ぼくとぼく」23回「ある晴れた夏の朝」6回、他10作品75回) 内、学校公演実績9作品530回 令和6年度:合計16作品517回(「ある晴れた夏の朝」13回「クローゼットQ」18回「わたしとわたし、ぼくとぼく」11回「小学校は宇宙ステーション」80回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」73回「ともだちやーあいつもともだち」72回「クモばんぼとぎんのくつした」80回「大きなカブ？ パーティー」48回「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」63回、他7作品59回) 内、学校公演実績9作品458回	
	特別支援学校等における公演実績	愛知県立港特別支援学校2008年7月11日 愛知県立安城特別支援学校2009年2月18日 栃木県立那須特別支援学校2016年11月14日(本事業) 愛知県立豊橋特別支援学校2018年11月21日(本事業) 愛知県豊田市立特別支援学校2019年7月5日 大阪府立平野支援学校2021年9月7日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」 香川県立香川東部養護学校2022年6月20日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」 三重県立豊学校2023年7月10日(本事業)「小学校は宇宙ステーション」 岐阜県立羽島特別支援学校2024年7月9日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」 岐阜県立揖斐特別支援学校2024年7月11日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」 三重県立特別支援学校西日野にじ学園2025年9月19日(本事業)「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://vimeo.com/1018209455	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	sensei251001

別添

なし

【公演団体名

劇団 うりんこ

】

対象

小学生(低学年)

○

小学生(中学年)

○

小学生(高学年)

○

中学生

企画名

先生、感想文、書けません！

企画のねらい

多様な人々と共に、相互理解を深め合いながら社会を形成することが求められている現代。自己と他者の肯定的な理解に基づき主体的に行動する力は、協働して社会形成に関わり、自己を活かしていく基礎となります。
「先生、感想文、書けません！」は、物語を創作しながら”自分じゃないものの気持ち”を想像し始めるみずかの物語を通して、自らやってみること(発想力・行動力・主体性)、他者と意見を交わしあうこと(コミュニケーション力)、他の人の気持ちを想像し理解しようとする事(想像力・他者理解)など、多様な人々と一緒に生きていく上で大切なことを伝えます。
また、この作品への参加体験においては、自分のアイディアが活かされる体験や、他者と一緒に表現する体験を通じて、主体的に参加して自己実現することの大切さと楽しさを伝えます。

演目概要・演目選択理由

【演目概要】小学3年生のみずかは読書感想文が苦手です。本を読むのは好きなのに、感想文を書こうとすると面白かった気持ちが消えていっちゃうのです。親友のあかねちゃんは「主人公の気持ちになって書いた」って言うのですが、自分じゃないものの気持ちになるなんて無理だと、みずかは思うのです。感想文が書けないのなら、感想文を書きたくなるような物語を自分でつくっちゃえばいい、とみずかは思いつきました。そこで、あかねちゃんと一緒に「あかねおねえちゃん、がんばる！」というお話をつくりはじめました。友達と一緒にアイディアを出し合って、夢中で物語をつくっている間に、自分が物語の中に入ったような気持ちになり、”自分じゃないものの気持ち”をたくさん味わいました。そして、味わった気持ちが心にいっぱい溜まって、書きたいことが次々に生まれてきたのです。この劇は、「小学生のころに作った冒険物語を劇にしたい」と、大人になったあかねちゃんが劇団うりんこに依頼に来る場面から始まります。物語を創作するみずかとあかねのお話、それを即興的に演じながら奮闘する劇団員たちのお話、双方のドラマにより、他者が思い描いたイメージを共有し、他者と共に共通の目的に向かって協働することの大切さを強く描いています。
【演目選択理由】感想文が書けないみずかの気持ちは、多くの小学生も感じたことのある気持ちでしょう。読書だけでなく様々な日常生活の中で、私たちは感情を動かしながら生きています。感情を言葉にすることは難しい時もあります。でも私たちは、それを言語化して他者と交流することで自分の存在を確かなものにしています。「先生、感想文、書けません！」では、苦手なことに対して発想力と行動力で主体的に向き合う姿を通して、自分じゃない物の気持ちを感じる事(多様な他者の考えを理解する力＝他者理解)、それを言葉にして他者に伝えること(自分の考えを他者に伝える力＝人間関係形成力、コミュニケーション力)の大切さをえがいています。
児童に身近な題材とワクワク感あふれる美術や物語によって、初めて演劇を観る児童に心躍る体験を提供できる演目です。
また、劇中には2曲の歌とダンスの場面があり、親しみやすくノリの良い曲調は聴覚的变化に富んでいて、観客の集中を助けます。劇中で音楽教材にもある「山のボルカ」が演奏される場面では、馴染みある曲に観客と舞台の一体感が高まります。高低差のある舞台は、大きな消しゴムや鉛筆など児童に馴染みのある文具がデザインされており、観客の興味を惹きつけます。
本作品の原作は、読書感想文推薦図書に指定されたこともあり、多くの児童や先生方に親しまれています。
以上の理由で、「先生、感想文、書けません！」を選択します。

児童・生徒の参加または体験の形態

【参加(共演)の形態】冒頭場面での参加(共演)です。学区内の事業所を訪問して、仕事内容や働く中での喜びや苦労などを取材して発表するという学習のために、「劇団うりんこ」を訪れる小学生という設定での共演です。取材や質問の内容は、共演児童のアイディアを活かして創作します。実施校独自の共演場面をつくることで、学校と共に「一度きりの公演」をつくります。
また、「事業所訪問」という実際の教科学習やキャリア教育で行われている学習とも重なる参加場面は、舞台芸術に関わる仕事への興味関心を育むだけでなく、働くことの意義や意味を理解するキャリアプランニング能力の育成に資することができます。
【体験の形態】上演後、バックステージツアーを実施します。舞台の構造を見学したり、衣裳の早替えの工夫や、俳優が演技をしながら音響の操作を行うための工夫などを見学してもらいます。
舞台裏見学を通して演劇への興味を多方向から持ってもらう事で、舞台芸術に対する興味関心を喚起し、将来の芸術家育成や鑑賞能力向上に寄与したいと考えています。

児童・生徒の参加可能人数

本公演

参加・体験人数目安

体験人数60名まで、共演児童は10名程

鑑賞人数目安

400名以下

本公演演目

原作/作曲

脚本

演出/振付

「先生、感想文、書けません！」
原作「先生、感想文、書けません！」作:山本悦子 絵:佐藤真紀子 童心社
脚本/演出:田辺剛(下鴨車窓) 美術:岡田保 音楽/音響:ノノヤマナコ 衣装:さくま晶子 振付:下出祐子
照明:河口琢磨 人形製作:加藤典子(人形劇団パン)

公演時間

65

分

出演者

濱田紀世(はまだきよ)、宮田智康、宮川希実、南村浩志、岩越由花 カッコ内は芸名

演目の芸術上の核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名

田辺剛(脚本演出):下鴨車窓主宰、劇作家、演出家。2005年に『その赤い点は血だ』で第11回劇作家協会新人戯曲賞を受賞。第14回OMS戯曲賞佳作受賞/2007年(戯曲『旅行者』)
下出祐子(劇団うりんこ芸術監督、振付):1984年劇団うりんこ入団、俳優だけでなく多くの作品の振付を担う、本作品「先生、感想文、書けません！」の振付担当
はまだきよ(出演):1989年劇団うりんこ入団、入団以来36年間にわたり年平均100ステージに出演を続けている。令和7年こども家庭庁こども家庭審議会特別推薦児童福祉文化財「クモばんぱとぎんぐのくつした」には主役のニユル役で出演

本公演従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む

出演者: 5 名

スタッフ: 1 名

合計: 6 名

運搬

積載量: 3 t

車長: 6.38 m

台数: 1 台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度	
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時、内、共演児童とのリハーサル11時20分～12時		13時30分～14時35分	0分	15時～16時30分	16時30分
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月		7月		8月		9月
	0日		0日		0日		5日
	10月		11月		12月		1月
	5日		6日		12日		14日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		42日
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) <							

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

劇団 うりんこ

】

ワークショップの
ねらい

①演劇的活動の体験を通して、演劇の魅力を体感する。
想像力・コミュニケーション力(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)・表現力を育成する。
・見えない大縄の大縄跳びなど、想像力や非言語表現力を使って楽しむ活動を行います。
・ペアでの表現活動や小グループでの創作活動を行うことで、言語によるコミュニケーション(受信と発信)や他者との合意形成の体験を通してコミュニケーション能力を育成します。
②共演場面の創作活動を通して、自己肯定感や自信を醸成し、主体的行動力を育成する。
・児童生徒のアイデアを活かした共演場面の創作により、自らのアイデアが共演場面の創作に活かされる体験を通し、発想力を育むと共に自己肯定感や自信を育みます。
・他者と共に課題解決(課題＝共演場面の創作)に取り組む過程において、自己理解を深めながら主体的に課題解決に取り組む姿勢を育みます。
③本公演への興味関心を高め、芸術鑑賞能力の向上を図る。
・子どもたちが主体的に楽しく活動できるよう親しみやすい表現での進行に努め、本公演への興味関心を高める。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

1学年(60名程度)、小学3年生以上、
共演児童は10名程度

ワーク
ショ
ップ
の
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

標準:90分(前半45分、休憩10分、後半45分)
【実施形態】
3年生以上、1学年(60名程度まで)で行います。
ワークショップ指導経験者が2名で指導します。
参加場面の練習に限らず、“演劇的表現”を楽しむためのワークショップや、コミュニケーション力や表現力向上をはかる活動を実施します。
【ワークショップ内容】 前半45分
①ガイダンス(5分)
ワークショップの目的を児童生徒に伝えます。
②導入の活動(15分)
アイスブレイクのための活動を行います。ワークショップへの期待を高め、緊張をほぐすために行います。
児童生徒になじみの深い「じゃんけん」を使った活動です。
③展開の活動①(25分)
コミュニケーションを楽しむ活動を行います。
ペアで身体表現を楽しむ活動です。(例えば「ナイフとフォーク」)
想像を楽しむ活動を行います(例えば「見えない大縄」)
小集団で合意形成し、創作活動を行います。(例えば「フリーズフレーム」)
休憩(10分)
後半45分
④展開の活動②
共演場面の内容を伝えます。(20分)
児童生徒のアイデアを活かして台詞を創作し、実施校独自の共演場面をつくります。
・冒頭場面で「劇団うりんこ」に取材に来る小学生という役で共演します。自分たちの学区にある事業所を訪問し、仕事の内容や働く中での喜びや苦勞について取材をして学級で発表するために、「劇団うりんこ」に取材に来る設定です。取材や質問の内容は、児童生徒のアイデアを活かしてつくります。(20分)
⑤まとめ(5分)
ワークショップのふりかえりや質疑応答などを行います。

○本公演での共演(参加)に向けて
本公演当日の午前中に45分程度のリハーサルを行います。代表の児童生徒はリハーサルへの参加が必要です。代表の児童生徒が俳優と共に舞台上で共演場面を演じます。

その他ワークショップに
関する特記事項等

・ワークショップと共演場面の内容について事前に資料を送り、実施校との打ち合わせを電話等で行います。
・参加する児童生徒には参加内容についての手紙(イラスト付き)を送り、教室などに掲示してもらい、あらかじめ内容周知をし、ワークショップや本公演日する興味関心を喚起します。
・ワークショップは本番に近い環境で行うために、公演会場と同じ場所(体育館)で実施します。
・ワークショップ当日は、実施前に、ワークショップの狙いや内容について学校側と共有し、ワークショップの円滑な実施のために担当の先生およびワークショップ参加児童生徒の担任の先生との打合せを行います。
・配慮や支援が必要な児童生徒については、事前に担任の先生と情報共有し、無理のない進行や適切な声掛けでワークショップを行います。

なし

劇団 うりんこ

1

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくこととなります。

なお、特設条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。					
会場の設置階の制限	2F以上応相談		主幹引き込み電源容量		60 A以上	
舞台設置面積	間口	13 m	奥行	11 m		
	高さ	4 m				
舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応		不可	
搬入間口の広さ	幅	1.8 m	高さ	1.8 m		
遮光の要否	7割程度必要		緞帳の要否		不要	
ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定				
		ピアノを使用しない場合の移動の要否			条件なし	
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		10 m以内	
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台		
搬入車両の大きさ	車幅	2.2 m	車長	6.38 m		
備考						

学校からの情報

(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。

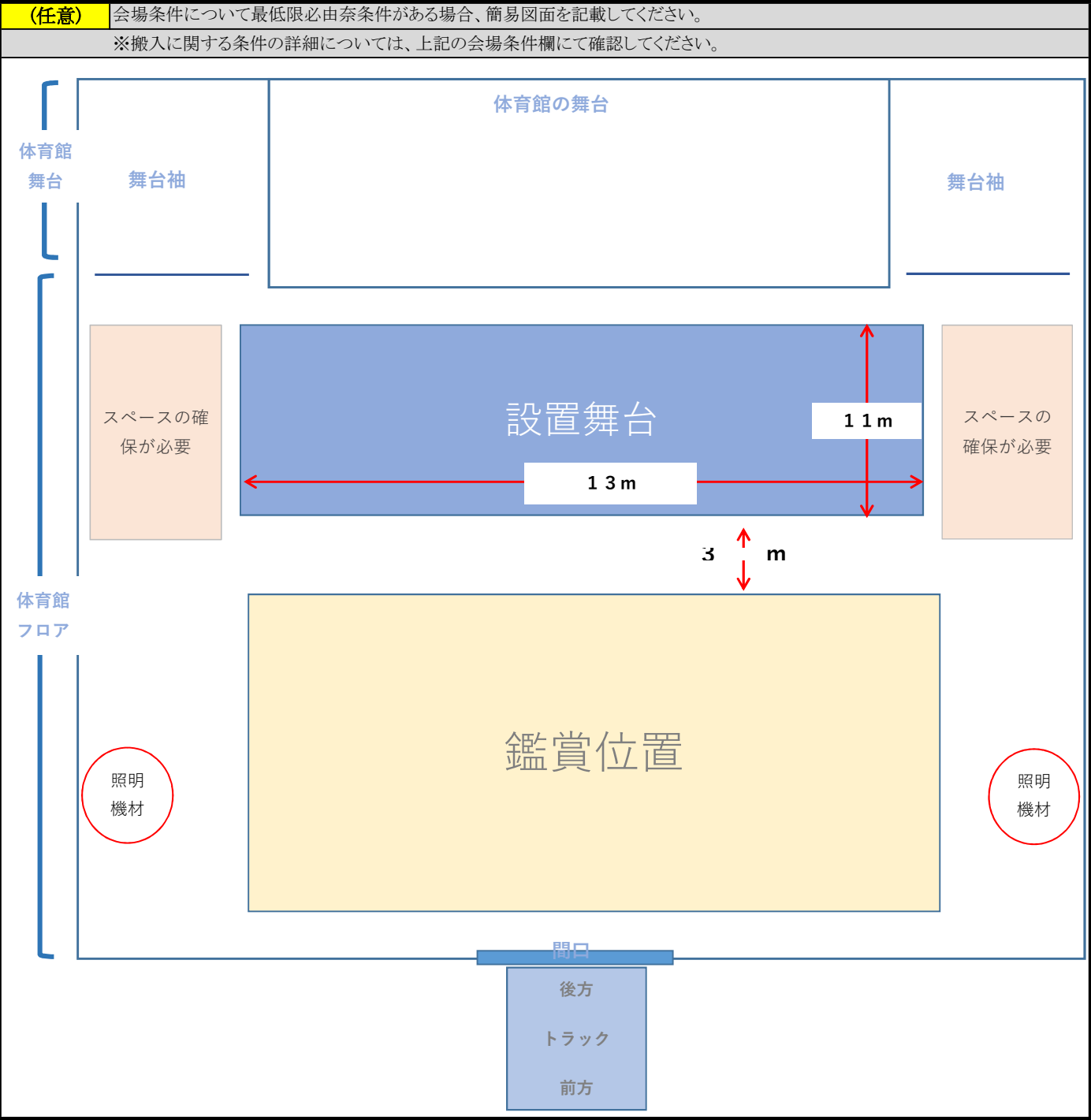
会場図面の提出要否

その他提出が必要な資料
(搬入間口や搬入経路の写真の提出等)

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	45分	11時30分から12時15分 4時間目に相当する時間	共演部分のリハーサル	
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

会場簡易図面



別添

なし

【公演団体名

劇団 うりんこ

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

【芸術鑑賞機会の充実】学校における芸術鑑賞の実施は、授業時間数確保や教員の働き方改革による学校行事精選などの影響により、減少傾向が続いています。また家庭の経済格差の広がりや地域格差の広がりが進み、子どもが芸術に触れる機会は均等とはいえない状況にあります。全ての子どもが芸術を鑑賞する機会を得ることは、国民の芸術鑑賞能力向上をはかる上で欠かせないと考えます。劇団うりんこは、すべての子どもたちに豊かな感性を育む場を提供することを理念に掲げて、年間400回超の学校公演を行っています。文化芸術は、多様で寛容な世の中を作り出すために不可欠なものです。すべての児童生徒に芸術鑑賞機会を提供し、文化的な地域格差の解消を促進するため本事業に取り組みます。

【芸術体験機会の充実】コミュニケーション能力向上事業での講師経験者や児童生徒の表現活動支援などで講師経験の豊富な者をワークショップ講師として派遣し、児童生徒の状態や学校の要望を詳細に把握した上で活動計画を立て、よりワークショップの効果を高める努力をし、芸術体験の充実に寄与します。共演においては参加児童のアイデアを活かし台詞や場面を創作することで児童生徒の発想力の育成を図り、自らの発想が活かされる体験や他者のアイデアを受け入れ表現する事を通し、自己肯定感と自信を育みます。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

・この「先生、感想文、書けません！」は2024年、舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動）において児童青少年演劇を牽引する作品創造として認められ、その助成金を受けて制作しました。学校公演における実績と高評価を得ている本演目をもって、より多くの児童生徒に芸術鑑賞の機会します。

・ワークショップでは、演劇的手法での身体活動や言語活動を通じて、体感的に他者との関わりを学び、他者と協力して課題解決することで得られる喜びや楽しさを体験する事で、コミュニケーション能力の育成に取り組みます。

・参加（共演）場面の創作では、教科学習やキャリア教育で行われている”職場訪問”を題材に、児童のアイデアを活かして創作することで、舞台芸術に関わる仕事への興味関心を育むだけでなく、働くことの意義や意味を理解するキャリアプランニング能力の育成に資する工夫をします。

・実施にあたっては、初めて演劇を観る児童生徒が多いことを念頭に、観やすく聞き取りやすい鑑賞環境を整えるとともに、熱中症対策や感染予防対策に留意し、本事業が児童生徒にとってより良いものとなるよう充分に注意します。

【学校との連絡調整について】

【実施決定後】実施校の担当者または校長先生に電話をして、実施月日の確認等を行い、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築きます。本公演実施までの流れやワークショップの進行案及び本公演の内容、タイムスケジュールなどを詳しく記載した書面、ポスターや演目のパンフレットなどを郵送します。

【実施前】ワークショップ・本公演の実施前に実施校の担当者にお電話し、実施に向けた確認をします。また、自然災害や感染症などの不測の事態における対応などを確認するとともに、緊急時等に対応するため時間外の連絡先をお伝えします。

【実施当日】舞台監督がご担当の先生と詳細に打ち合わせを行い、円滑な実施に心がけます。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

・ワークショップ実施前に、児童宛に共演場面の内容を漫画とイラストで描いた手紙を送り、内容を知ってもらうとともに、ワークショップや本公演に対する興味や期待を高めます。

・事前に演目のポスターを送り、校内に掲示をお願いします。ポスターを目にすることで、鑑賞に対する期待を高めます。

・ワークショップやリハーサルに実施に際しては、児童の様子や配慮すべきことなどを把握するために、担任の先生との打ち合わせの時間を設けます。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

・本公演実施後に、児童生徒に「お楽しみカード」を配布します。お楽しみカードには演目に関するクイズなどとQRコードが記載しており、QRコードを使って演目独自の限定公開映像を見ることが出来ます。鑑賞後にも楽しめるコンテンツを用意することで、継続的な興味関心をひきだすことが期待できます。また、動画視聴を通して団体のホームページにアクセスすることで、他の演目や団体の概要などを知ることができ、舞台芸術への興味関心を喚起する効果が期待できます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫